

第3章 環境モニタリング調査

3.1 環境モニタリング調査の概要

3.1.1 目的と調査項目

■環境モニタリング調査の目的

環境モニタリング調査は、吉野川渡河部の自然環境の保全を目的とし、工事実施段階(工事前・工事中・工事後)に応じた、現状把握・環境監視・評価の実施を目的としている。なお、必要に応じて環境保全対策を検討することを目的としている。



※1：評価の後、必要に応じて環境保全対策を検討しました。

※2：事後調査は、下部工完成後2年間、桁架設工完了後2年間実施しました。

■調査項目と調査範囲の考え方

橋梁整備(橋梁の存在と工事施工)による環境への影響は、工事前後の調査結果を単純に比較するだけでなく、自然変動も踏まえて適正に評価する必要があります。以下に、各調査項目と調査範囲の考え方を示す。

調査項目	橋梁整備による直接的な影響を把握するための調査範囲	自然変動による影響を把握するための調査範囲
① 騒音・振動調査	シギ・チドリ類のねぐら付近 周辺家屋	—
② 水質調査	工事施工で設置する 汚濁拡散防止膜の周辺	左記の位置から離れた地点
③ 地形調査	橋脚設置により、地形変動が生じると 予測される範囲※1	左記の領域に隣接する範囲
④ 底生物・底質調査		
⑤ 鳥類調査	橋梁整備により、鳥類の行動・個体数等の 変化が観測される範囲	日本全体※2
⑥ 魚類調査	計画路線上の周辺	—

※1：吉野川距離標 0.0k から上下流に 400m の範囲。

※2：日本全体と徳島県(吉野川河口)に出現するシギ・チドリ類の変動傾向を環境省等のデータから把握しました。

■調査区分

環境モニタリング調査の工事実施段階ごとの調査区分を、以下に示す。

調査段階	内容
①事前調査	○工事前の環境を把握するための調査 事前調査の結果は、工事前の現況把握のほか、工事中調査計画をブラッシュアップするための基礎資料とします。
②工事中調査	○工事中の環境を監視するための調査
③事後調査	○工事後の環境を監視するための調査

■施工段階

環境モニタリング調査の施工段階を以下に示す。

○下部工施工

調査区分	施工段階
事前調査	工事着手前
工事中調査 ～H31.3 まで	下部工施工期間 (湧水期)
	下部工施工休止期間 (出水期)
工事中調査 ～H31.4 以降	下部工施工期間 (通年施工)
事後調査	下部工施工完了後(2年間)

※：H31.4 以降は工期短縮のため、通年施工を実施しました。

○上部工施工

調査区分	施工段階
事前調査	工事着手前
工事中調査 ～R3.8 まで	桁架設工期間
事後調査 ～R3.9 以降	桁架設完了後(2年間)

3.1.2 実施状況

環境モニタリング調査は、吉野川サンライズ大橋が周辺環境に与える影響を監視するために、実施してきたものである。工事前から実施してきた調査項目を、次ページの表 3.1-1 と表 3.1-2 に示す。

